









「伊丹スープ」を振る舞う学生

自慢のスープ振る舞う

滋賀大 学 生
歌津で復興ワカメまつり

滋賀県立大学看護学部の学生が22日、南三陸町歌津田の浦地区で「復興ワカメまつり」を開催。ワカメスープを振る舞い、ダンスパフォーマンスなどで、地元の人たちと楽しい時間を過ごした。

同大学は東日本大震災以降、番屋の建設やホタテ貝のキャンドル制作などで田の浦を支援し続けている。今回は、看護学生で組織する地域貢献活動グループ「未来看護塾」のメンバー15人が訪れ、手作りイベントで交流を深めた。

浜の人たちに最も喜ばれたのは、中華風の「伊丹スープ」。同大学教授の自慢のスープで、歌津産のワカメ、ほうれん草、油揚げを使い、ほんのりとごま風味がするのが特徴。地元の漁師や仮設住宅入居者、近所の人たちが続々と駆けつけ「初めての味だがおいしい」「歌津にはない味。作り方を教えて」などと笑顔で話しながら舌鼓を打ち、「昼飯前なんだけど…」と言いつつ、おかわりする人も。

「看護塾」代表の川杏奈さん(20)は、「被災地には初めて来ましたが、地元の人たちが思ったよりも元気だったのが印象的でした。滋賀県からは遠いですが、今回のつながりを大切に、今後も田の浦を応援していきたい」と話していた。